

公益財団法人MSD生命科学財団

令和2年度事業報告

I. 概況

当財団は、旧万有製薬株式会社（現MSD株式会社）のCSRとして始まった活動を、より継続的・発展的に運営するために平成14年に設立されました。生命科学の研究の推奨及び助成とともに、国際交流を担うべき人材の育成に関する事業として、研究者への研究/留学サポート、研究者育成に繋がるシンポジウムの開催等の活動を行っております。（平成23年4月に公益財団法人の認定取得、平成28年10月に財団名称を変更）

令和2年度は、引き続き、医学分野では4領域の研究助成をメインとした活動、有機化学分野では、シンポジウム等の支援活動を行ってまいりました。ただ、COVID-19の影響により、一部、活動の延期や中止を余儀なくされたものもありました。具体的な事業活動の詳細は、次のとおりです。

II. 事業活動報告

1. 医学分野：

実績：13,521万円 / 予算：16,423万円

1-1. 研究助成

実績：12,604万円 / 予算：15,100万円

（当事業は、「助成(応募型)」並びに「表彰、コンクール」の両事業区分に該当する）

これまでのプログラムを継続し、日本国民の死因トップ3に着目した、がん領域、生活習慣病領域、感染症領域（女性研究者に対する支援プログラムを含む）、呼吸器・アレルギー領域に対する研究助成を行った。加えて、研究者のライフイベント（出産・育児・介護）を配慮し、研究の継続を支援した。

➤ **がん領域** 【公募期間：4月1日～6月30日】 **実績：4,910万円 / 予算：5,110万円**

- 1) 目的： 国民の死因第一位である悪性新生物（がん）に対する治療の進展・発展に貢献できる研究への助成を通して次世代を担う研究者の育成を支援する。
- 2) 研究課題： がんに関する独創的な基礎研究または臨床研究
- 3) 募集対象： 【若手研究者】 国内においてがんに関する研究を行う 満40歳以下の者（M.D.は42歳以下）
【スタートアップ】 国内においてがんに関する研究を行う 満45歳以下の者（M.D.は47歳以下）で、平成30年4月1日～令和2年6月30日までに、日本国内で新たに講座、教室または研究室の責任者となった者
- 4) 募集人数： 【若手研究者】 10名以内
【スタートアップ】 1名

- 5) 助成内容： 令和2年度は、総額 4,500 万円を交付した。
- 【若手研究者】 毎年 10 名を上限として、各 150 万円/年（2 年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者 10 名に 2 年目助成金（各 150 万円）を交付
 - ・ 令和2年度交付者 10 名に 1 年目助成金（各 150 万円）を交付
- <追加助成> 平成 30 年度【若手研究者】交付者の中から、2 年間の成果を再評価し、優秀な成果をあげた研究者を『医学奨励賞』として表彰するとともに、追加助成を行う。
- ・ 最優秀賞 1 名に追加助成金（300 万円）を交付
 - ・ 優秀賞 2 名に追加助成金（各 100 万円）を交付
- 【スタートアップ】 毎年 1 名を上限として、500 万円/年（2 年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者 1 名に 2 年目助成金（500 万円）を交付
 - ・ 令和2年度交付者 1 名に 1 年目助成金（500 万円）を交付

- 6) 選考/公開： 【若手研究者】【スタートアップ】
- 選考委員による書類審査を経て、11 月にオンライン選考会（プレゼン審査）を開催し、令和2年度【若手研究者】交付者 10 名、【スタートアップ】交付者 1 名を決定。交付者は、財団ホームページに公開した。
- 【医学奨励賞（追加助成）】
- 平成 30 年度【若手研究者】交付者の 2 年間の研究成果報告について、選考委員による書類審査により医学奨励賞候補者を選出。さらに、11 月にオンライン選考会（プレゼン審査）を開催し、候補者より口演発表された研究成果について、選考委員による選考の結果、最優秀賞 1 名及び 優秀賞 2 名を決定。受賞者は財団ホームページに公開した。

➤ **生活習慣病領域** 【公募期間：4月1日～6月24日】

実績：4,727 万円／予算：5,344 万円

- 1) 目的： 生活習慣病関連の研究に助成を行い、日本の内科系基礎・臨床研究分野における研究者の育成とその研究を奨励する。
- 2) 研究課題 生活習慣病領域の疾病の原因解明と新たな治療法の開発
- 3) 募集対象： 【若手研究者】 国内において生活習慣病（循環器分野、糖尿病／代謝分野）に関する研究を行う 満 40 歳以下の者（M.D.は 42 歳以下）
- 【スタートアップ】 2 年毎の募集プログラムにつき、令和2年度の公募はなし
- 4) 募集人数： 【若手研究者】 16 名以内
- 【スタートアップ】 0 名（2 年毎の募集プログラム）

- 5) 助成内容： 令和2年度は、総額 4,300 万円を交付した。
- 【若手研究者】 毎年 16 名を上限として、各 100 万円/年（2年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者 14 名に 2 年目助成金（各 100 万円）を交付
 - ・ 令和2年度交付者 16 名に 1 年目助成金（各 100 万円）を交付
- <追加助成> 平成 30 年度交付者の中から、2 年間の成果を再評価し、優秀な成果をあげた研究者を『第 9 回万有医学奨励賞』として表彰するとともに、追加助成を行う。
- ・ 最優秀賞 1 名に追加助成金（300 万円）を交付
 - ・ 優秀賞 5 名に追加助成金（各 100 万円）を交付
- 【スタートアップ】 2 年毎に、1 名を上限として、500 万円/年（2 年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者 1 名に 2 年目助成金（500 万円）を交付
- 6) 選考/公開： 【若手研究者】
- 選考委員による書類審査を経て、8 月に 2 分野（循環器、糖尿病/代謝）のオンライン選考委員長会議を開催。9 月に各分野でオンライン選考委員会を開催し、令和2年度【若手研究者】交付者 16 名を決定。交付者は財団ホームページに公開した。
- 【第 9 回万有医学奨励賞（追加助成）】
- 平成 30 年度【若手研究者】交付者の 2 年間の研究成果報告について、選考委員による書類審査により、第 9 回万有医学奨励賞候補者を選出。さらに、11 月にオンライン選考会（プレゼン審査）を開催し、候補者より口演発表された研究成果について、選考委員による選考の結果、最優秀賞 1 名及び 優秀賞 5 名を決定。受賞者は財団ホームページに公開した。

➤ **感染症領域** 【公募期間：4 月 1 日～6 月 15 日】

実績：1,684 万円／予算：1,819 万円

- 1) 目的： 豊かな発想とそれを実現化させる熱意を持ち、感染症にフォーカスした研究を行う研究者に対して助成を行い、若手研究者の育成を支援する。
- 2) 研究課題： 感染症の独創的な基礎研究、臨床研究または疫学研究
- 3) 募集対象： 【若手研究者】 感染症にフォーカスした研究を行う 満 40 歳以下の者（M.D.は 42 歳以下）
- 4) 募集人数： 【若手研究者】 7 名以内

- 5) 助成内容： 令和2年度は、総額 1,400 万円を交付した。
【若手研究者】 毎年7名を上限として、各 100 万円/年（2年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者7名に2年目助成金（各 100 万円）を交付
 - ・ 令和2年度交付者7名に1年目助成金（各 100 万円）を交付
- ＜追加助成＞ 2年間の成果を再評価し、優秀な成果をあげた研究者を『医学奨励賞』として表彰するとともに、追加助成を行う。
- ・ 令和2年度は、追加助成の対象なし
- 6) 選考/公開： 選考委員による書類審査を経て、11月にオンライン選考会（プレゼン審査）を開催し、令和2年度【若手研究者】交付者7名を決定。交付者は財団ホームページに公開した。

➤ **呼吸器・アレルギー領域** 【公募期間：4月1日～6月15日】

実績：1,013万円／予算：1,137万円

- 1) 目的： 呼吸器・アレルギー疾患の治療の進歩・発展に貢献できる次世代を担う若手研究者の育成を支援する。
- 2) 研究課題： 呼吸器・アレルギー疾患に関する独創的な基礎研究または臨床研究
- 3) 募集対象： 【若手研究者】 呼吸器・アレルギー領域の研究を行う 満 40 歳以下の者（M.D.は 42 歳以下）
- 4) 募集人数： 【若手研究者】 4名以内
- 5) 研究助成： 令和2年度は、総額 800 万円を交付した。
【若手研究者】 毎年4名を上限として、各 100 万円/年（2年間）を助成するプログラム
- ・ 令和元年度交付者4名に2年目助成金（各 100 万円）を交付
 - ・ 令和2年度交付者4名に1年目助成金（各 100 万円）を交付
- ＜追加助成＞ 2年間の成果を再評価し、優秀な成果をあげた研究者を『医学奨励賞』として表彰するとともに、追加助成を行う。
- ・ 令和2年度は、追加助成の対象なし
- 6) 選考/公開： 選考委員による書類審査を経て、11月にオンライン選考会（プレゼン審査）を開催し、令和2年度【若手研究者】交付者4名を決定。交付者は財団ホームページに公開した。

➤ **女性研究者支援 -感染症領域-** 【平成 30 年度にて募集終了】

実績：153 万円／予算：158 万円

- 1) 目的： 新たな学術領域を拓く女性研究者の育成・支援のための研究助成を行う。特に、既存の枠にとらわれない独創的な萌芽的研究や異分野連携の研究を支援する。
- 2) 研究課題： 感染症の原因解明と診断・治療法及びワクチン等による予防法の開発
- 3) 募集対象： 感染症（ワクチンを含む）の女性研究者で、満 40 歳以下の者（M.D.は 42 歳以下）
- 4) 募集人数： 平成 30 年度にて募集終了のプログラムにつき、令和 2 年度の新たな公募はなし
- 5) 助成内容： 令和 2 年度は、総額 150 万円を交付した。
(追加助成) 平成 30 年度交付者の 2 年間の成果を再評価し、優秀な成果をあげた研究者を『医学奨励賞』として表彰するとともに、追加助成を行う。
 - ・ 医学奨励賞受賞者 1 名に追加助成金（150 万円）を交付
- 6) 選考/公開： 【医学奨励賞】
11 月にオンライン形式にて開催された「医学奨励賞選考会」において、平成 30 年度交付者 6 名により口演発表された 2 年間の研究成果について、選考委員による選考の結果、最優秀賞 1 名を決定。受賞者は財団ホームページに公開した。なお、今回が本プログラム最後の選考、助成となった。

■ **4 領域合同研究発表会**

実績：116 万円／予算：1,454 万円

- 1) 目的： 交付者に対して、専門領域でのより深い研鑽に加え、同世代あるいは異なる領域での研究者及び選考委員との交流による新しいネットワーク構築の機会を提供する。
- 2) 研究発表： 令和 3 年 2 月に、研究助成 4 領域（がん, 生活習慣病, 感染症, 呼吸器・アレルギー）の選考委員及び交付者が参加する研究発表会の開催を計画していたが、COVID-19 の影響を鑑み、令和 2 年度の開催を断念した。

➤ **がん医療政策に関する研究** 【令和元年度特別助成プログラム】

実績：0 万円／予算：77 万円

- 1) 目的： がん医療の社会的価値をテーマとした具体的政策提言につながる研究に対し助成を行う。
- 2) 研究課題： 日本国内または国内外の比較において、がん医療（医療倫理、診断、治療を含む）の社会経済的な価値に着目し、がん患者の健康アウトカムの向上を目的とした政策提言に資する研究

- 3) 募集対象： 医療経済、医療制度、医療政策、社会保障政策、医薬品産業政策などを研究テーマとし実践応用・計画発信する研究室または研究グループ
- 4) 募集人数： 令和元年度特別プログラムにつき、令和2年度の公募はなし
- 5) 助成内容： 1件あたり500万円（2年間）を助成するプログラム
令和2年度の新たな助成金の交付はなし
- 6) 事業活動： 令和元年度交付者による中間成果報告会等を計画していたが、COVID-19の影響を鑑み、令和2年度の開催を断念した。

1-2. 海外留学助成【平成30年度にて募集終了】 **実績：916万円／予算：1,199万円**

(当事業は、「助成(応募型)」の事業区分に該当する)

我が国の学術研究の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を育成・確保するため、優れた若手研究者が海外へ留学し、大学等研究機関において研究に専念できるよう支援した。

なお、海外留学助成の募集は、平成30年度をもって終了した。

➤ 呼吸器・アレルギー領域

- 1) 目的： 若手研究者の海外留学を助成し、優秀な研究者の育成を図る。
- 2) 募集対象： 呼吸器・アレルギー領域の研究を行う、満40歳未満の研究者
- 3) 助成内容： 1件あたり600万円（300万円×2年間）を助成するプログラム
令和2年度は、総額900万円を交付した。
・平成30年度交付者3名に2年目助成金（各300万円）を交付
- 4) 事業活動： 帰国者による報告会開催を予定していたが、COVID-19の影響を鑑み、令和3年度以降に開催を延期した。

1-3 医学領域への支援内容の検証活動

実績：0円／予算：124万円

- 1) 目的： 現行のがん、生活習慣病、感染症、呼吸器・アレルギー領域に関する疾病への予防、治療等に関する研究助成、並びに医療政策に関する研究助成などについて、プログラムの内容が研究者のニーズに沿ったものであるかを定期的（3年ごと）に検証する。
- 2) 事業活動： 令和4年度以降の支援内容検討のため、当該領域の専門家の意見収集を予定したが、COVID-19の影響等により、財団内での検討開始にとどまり、専門家との協議は令和3年度以降に必要な応じて実施する。

2. 有機化学分野：

実績：1,365万円／予算：2,768万円

2-1 シンポジウム（学術講演会の開催並びに助成） **実績：1,023万円／予算：2,060万円**

（当事業は、「講座、セミナー、育成」の事業区分に該当する）

- 1) 目的： 講演会の開催並びに助成により、薬学、農学、工学、理学など関連学部の学生並びに若手研究者の育成と学術知識の普及を図る。
- 2) 対象： 大学及び大学院の学生他
- 3) 活動内容：

① 各地区（福岡、仙台、札幌、名古屋、大津）シンポジウム

令和2年度は、COVID-19の影響により、開催日及び開催方法等計画が変更又は延期された。

- 3地区（福岡、仙台、札幌）の学術講演会は、当初予定していた5-6月開催を延期し、10-12月にオンライン形式で開催された。オンライン形式でも例年と変わらない約1,200名の参加があり、盛況であった。
- 10月開催を計画していた第11回大津会議は、令和3年2月に延期し、オンライン形式で開催された。当日は、全国から選抜した17名の若手研究者の討論・交流が行われた。
- 5月開催を計画していた第25回名古屋メダルセミナーは、ゴールドメダル受賞者の来日が叶わず、延期となった。

② 万有シンポジウム連絡協議会

- COVID-19の影響を鑑み、令和2年度の開催は中止した。

2-2 Chemist Award BCA & Lectureship Award MBLA

【公募期間：6月1日～8月15日】

実績：194万円／予算：404万円

（当事業は、「助成(応募型)」並びに「表彰、コンクール」の両事業区分に該当する）

- 1) 目的： 優秀な研究者を選抜し研究交流の機会を与えることにより、有機合成化学分野の学術振興に貢献する。
- 2) 募集対象： 有機合成化学及びその関連分野 満40歳未満の研究者
- 3) 活動内容：

【令和2年度】

- 9月に行われた書類選考により「Chemist Award BCA 2020」4名が選出された。
- MBLA選考会（英語によるプレゼン審査）を12月に開催し、「Lectureship Award MBLA 2020」を決定。受賞者は財団ホームページに公開した。

【令和元年度 Lectureship Award MBLA 2019 受賞者】

- 10月開催「第30回記念万有福岡シンポジウム」にて、受賞者による受賞講演ならびに授賞式を行った。

- 10月に計画していた海外（欧米）の著名な大学、研究所での講演ツアーは COVID-19 の影響により、令和3年度以降に延期となった。

【平成30年度 Lectureship Award MBLA 2018 受賞者】

- 令和元年度に台風19号の影響により延期していた受賞者による米国講演ツアーは、COVID-19の影響により、令和3年度以降に延期となった。

2-3 KYOTO Rising-Star Lectureship Award 【公募期間：4月1日～5月31日】

実績：146万円／予算：303万円

（当事業は、「助成(応募型)」並びに「表彰、コンクール」の両事業区分に該当する。）

- 1) 目的： 海外の優秀な若手研究者を選出・表彰し、日本の若手研究者との交流の機会を与えることにより、国内外の若手研究者の啓発と育成を含め、有機化学分野の学術振興に貢献する。
- 2) 募集対象： 有機化学及びその関連分野 満40歳未満の研究者（令和2年度は米国在住者対象）
- 3) 活動内容：
 - 選考会を7月に開催し、「KYOTO Rising-Star Lectureship Award 2020」を決定。受賞者は財団ホームページに公開した。
 - 11月に計画していた来日講演ツアーは、COVID-19の影響により延期となった。

III. 管理業務報告

1. 令和元年度事業報告及び決算等について、令和2年6月1日開催の理事会にて承認され、同月17日開催の評議員会において、決算書類が承認された。また、同月25日、内閣府に対して定期提出書類の提出を行った。
2. 6月の評議員会において選任された理事（3名の重任）について、変更登記を行った。
3. 7月に、出捐会社のMSD株式会社に対し、財団のガバナンスや令和元年度事業活動の報告とともに、令和2年度の活動計画についての説明を行った。
4. 医学分野及び有機化学分野への継続支援を前提とした令和3年度事業計画及び収支予算等について、令和3年2月27日開催の理事会にて承認され、3月16日の評議員会において報告された。また、同月18日、内閣府に対して定期提出書類の提出を行った。
5. 令和3年1月1日付での出捐会社MSD株式会社新社長就任に伴い、3月16日に出捐会社に対し、公益財団法人の概要及び財団のガバナンスや助成活動詳細等の基本情報の共有を行った。

※ 本報告書における金額は、人件費・固定費等の共通経費を除く直接費の概算金額である。

以上